

四国アイランドリーグの観戦者に関する研究

Research on those who watch about Shikoku island league

1K04B074-9

木村 紗希

指導教員

主査 木村和彦先生

副査 原田宗彦先生

[緒言]

2004 年、球界再編問題により、日本プロ野球史上初のストライキが敢行され、50 年ぶりに新球団が誕生し、日本の野球界は新たな歴史を刻んだ。その翌年の 2005 年にNPBとは一線を画した新たなプロ野球リーグが誕生した。その名は「四国アイランドリーグ」である。元プロ野球選手の石毛宏典氏が中心となり発足した四国地方4県を活動地域とする日本初の野球の独立リーグである。四国アイランドリーグは3年目を迎えたが、経営面では2年連続で赤字を計上し、困難な状況が続いている。

赤字が続いている四国アイランドリーグで観戦者増加のためには何が必要であるのか。本研究の目的は四国アイランドリーグの観戦者の実情を把握するとともに、先行研究を元に日本のプロ野球チーム(楽天イーグルス)のチームロイヤルティ、観戦動機を独立リーグと比較し観戦者増加のための要因を明らかにすることである。

[研究方法]

四国アイランドリーグの観戦者の実態を明らかにするため、以下の日程で質問紙調査を実施した。

- ・ 調査日時 2007 年 9 月 2 日 (日)
- ・ 対象試合 高知ファイティングドッグス
- ・ 対香川オリーブガイナーズ
- ・ 調査対象 土佐山田スタジアム来場者
- ・ 観客動員数 817 人
- ・ 回収数 201 人
- ・ 調査員 木村和彦研究室学生 22 名

調査内容は以下に示す通りである。

- ① 観戦者のデモグラフィック特性
- ② 観戦者の観戦行動に関する4項目
- ③ チームロイヤルティに関する5項目
- ④ 観戦動機に関する7項目
- ⑤ リーグへの評価に関する5項目

③、④に関しては先行研究の楽天イーグルスのデータを基にして NPB のチーム(楽天)とアイランドリーグで各項目をクロス集計し、カイ二乗検定を行った。

[結果]

四国アイランドリーグ観戦者の主な年代は、30～

50 代の男女であった。年齢が高くなるほど、男性の割合が多くなる傾向がある。四国アイランドリーグに観戦者に訪れる人の約半数は家族と訪れている。観戦回数に関しては、約 2 割の人が初めて観戦に訪れており、約 4 割の人が今年 11 回以上訪れていた。観戦者の 94.0%が応援するチームがあると回答した。応援しているチームの内訳は高知のホームゲームであったため、高知が 73.9%、香川が 19.7%であった。

チームロイヤルティの面では、四国アイランドリーグの平均は 25 点満点中 18.55 点という高い値が出た。それに対し、楽天の平均は 17.97 点であった。独立リーグのチームロイヤルティがNPBのチームよりも高いという結果だった。

観戦動機のカロス集計の結果、6 つの項目で差が現われた。特に「イベントが楽しみだから」、「好きな選手のプレーが観たいから」の項目で楽天の方が「非常に当てはまる」「ある程度当てはまる」と回答した人がアイランドリーグの割合を上回った。チームロイヤルティ以外の観戦者増加のための要因としてこの 2 つが挙げられることがわかった。

[考察]

今回の調査の結果として、チームロイヤルティはNPBのチームより四国アイランドリーグの方が高いという結果になったが、チームロイヤルティという要素だけでは観戦者の増加には結びついていないといえる。3 年目を迎えて、観客がある程度、固定化しチームロイヤルティとしては高い結果がでるが、観客数の増加ということに関しては大きな変化は見られない。以上より、四国アイランドリーグにおけるチームロイヤルティは観戦行動に訪れる重要な要因の一つであるが、観戦者の増加には他の要素も必要であるといえる。今回の調査により、楽天と四国アイランドリーグの観戦動機を比較したときに観戦行動に影響を及ぼす「イベント」と「選手のプレー」という2つの新たな要因があることがわかった。今後は四国アイランドリーグ独自の戦略で新規ファンの獲得とともに「イベント」と「選手のプレー」の要素に力を入れることが観戦者の増加につながると考えられる。